

稲作だより

第 3 号
育苗後期 &
本田準備編

令和5年4月 20 日発行
山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト
最上地域本部
最上総合支庁農業技術普及課
Tel 29-1329 (稲作担当)

気温の変化に注意して温度管理を！

4/22～4/28 気温は低い見込み

4/29～5/05 気温は平年並みの見込み

(気象庁 山形県の季節予報 4/20 現在)

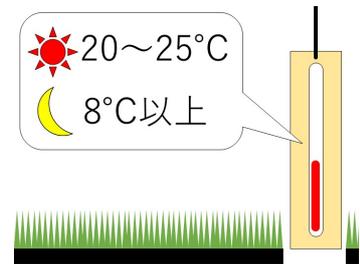
<育苗後期 ～硬化期のポイント～>

◎温度管理 ～ハウスの温度はこまめに確認を～

硬化期の育苗適温は、昼間 20～25℃、夜間 8℃以上
苗の近くに設置した温度計で測定しましょう。

日中の高温時は、換気により温度管理を行います。

朝晩等の低温時は、保温資材を適正に使用しましょう。



徒長防止のため、苗の過保護は厳禁!

田植えの約 1 週間前からは、霜の心配がない限り、昼夜ともハウスを開放して苗を外気に慣らしましょう。

◎水管理 ～かん水は午前中に 1 回が基本～

かん水の基本は 十分な水量を午前中に 1 回

低温時や夕方のかん水は、床土温度の低下、過湿・カビの原因になるため避けましょう。

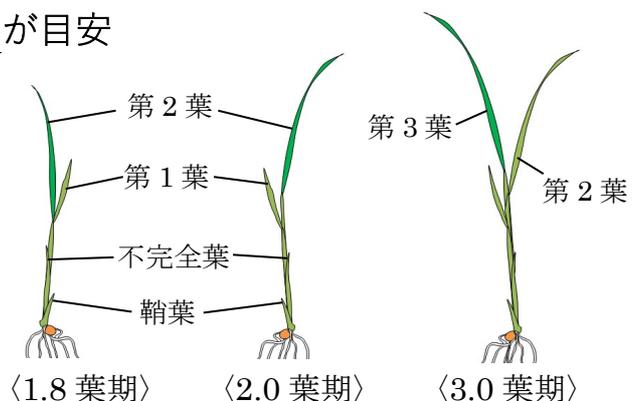
換気の風が直接当たると培土が乾く原因になります。板などで風よけを作りましょう。

◎追肥 ～苗の生育 (葉齢) を確認し適期に追肥を～

追肥は 1 回につき 1 箱当り窒素成分で 1g が目安

苗の種類 (移植時葉齢)	追肥時期
稚苗 (2.2～2.5葉)	1.8葉期
中苗 (3.2～3.5葉)	1回目：2.0葉期 2回目：3.0葉期

※床土に緩効性肥料(育苗一発肥料など)を使用した場合は、追肥の必要はありません。



やまがたアグリネット

お使いの PC やスマートフォンから作物別・地域別のタイムリーな
技術情報・病害虫防除・農薬情報等をご覧になれます。会員登録無料！



<本田準備 ～土づくり・耕起・基肥～>

◎積極的な土づくり ～気象変動に強い米づくり～

ようりん、ケイカル、有機物の積極的な施用を行おう！

ようりん、ケイカル等の土づくり肥料は、水稻の生育に必要な養分の供給源となります。

また、堆肥等の有機物は、土壌の通気性や透水性を改善し養分供給力を高めます。

近年、日照不足や長期間の降雨、高温など、気象変動が大きい年が続いています。

積極的な土づくりで、気象変動に負けない米づくりを目指しましょう。

<土づくりに効果のある肥料や有機物施用と収量>

(稲作指針より)

区	施用資材(施用量)	平均収量(H11～20)
土づくりなし	稲わら(500kg/10a)	637kg/10a
土づくりあり	ケイカル(120kg/10a) ようりん(30kg/10a) 稲わら(500kg/10a)	<u>673kg/10a</u>

◎耕起 ～適切な耕起深確保で根域確保～

作土層の目安は 15cm 程度

作土層が浅いと、肥効の持続性が短く、根張りも浅く、根の機能低下も早まります。

耕起作業は「ゆっくり深く」を意識して行いましょう。

◎基肥施用 ～品種と地力に合わせた適正施用を～

下表の地力・品種別基肥量を目安に、地力に応じた基肥を行う

初期生育を確保するためには、側条施肥や耕起後の施肥が有効です。

側条施肥は肥料の利用効率が高いため、2～3割減らした量が目安です。

堆肥を施用した圃場は施用量に応じて減肥を行いましょう。

全量基肥栽培(一発肥料)の場合は、品種ごとの基肥基準量+穂肥基準量の合計を超えないように注意しましょう。

<地力・品種別の基肥量目安>

(単位：窒素成分 kg/10a)

	つや姫	雪若丸	はえぬき	ひとめぼれ	あきたこまち	ヒメノモチ
地力高	3.0	4.0	4.0～5.0	4.0	5.0	5.0
地力中	4.0	5.0	5.0～6.0	4.5～5.0		
地力低	4.0～5.0	5.0～6.0				

農作業安全 ～農作業事故を防止しましょう！～

危険個所をあらかじめ点検し、トラクターの転落・転倒に注意しましょう。

点検整備は必ずエンジンを止めてから。ちょっとした油断が命取り！

公道ではブレーキを連結し、低速車マークをつけて運転しましょう。

山形県農作業事故防止啓発運動～春季運動強化期間(4月10日～6月10日)